

# 2022年3月期 連結決算

2022年5月26日

代表取締役社長 池見 賢



# 1. 2023年3月期計画

単位:億円

	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高 (収益認識適用後)	9,000	8,667	333	3.8%
営業利益	240	238	2	0.8%
経常利益	250	276	△26	△9.4%
当期純利益 (親会社株主帰属)	160	169	△9	△5.3%

## 2. 2023年3月期セグメント・ユニット別計画

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	353	315	38	22	3	19
	養殖	137	146	△ 9	0	0	0
	水産商事	2,682	2,786	△ 104	35	38	△ 3
	海外	1,909	1,589	320	78	93	△ 15
水産資源セグメント計		5,081	4,836	245	135	133	2
加工食品	加工食品	990	974	16	39	39	0
	ファインケミカル	73	68	5	14	11	3
加工食品セグメント計		1,063	1,042	21	53	51	2
食材流通	食材流通	2,004	1,908	96	29	32	△ 3
	畜産	672	711	△ 39	9	7	2
食材流通セグメント計		2,676	2,619	57	38	39	△ 1
物流	物流	177	166	11	15	11	4
その他		3	4	△ 1	2	2	0
全社		0	0	0	△ 3	2	△ 5
合計		9,000	8,667	333	240	238	2

### 3. セグメント、ユニットの改編(2022年4月1日～)

改編前

水産資源セグメント	加工セグメント	物流セグメント
漁業ユニット 養殖ユニット 水産商事ユニット 荷受ユニット 海外ユニット	家庭用冷凍食品ユニット 家庭用加工食品ユニット 業務用食品ユニット 畜産ユニット 化成ユニット	物流ユニット



改編後

水産資源セグメント	加工食品セグメント	食材流通セグメント	物流セグメント
漁業ユニット 養殖ユニット 水産商事ユニット 海外ユニット	加工食品ユニット ファインケミカルユニット	食材流通ユニット 畜産ユニット	物流ユニット

## 4. 2023年3月期セグメント別計画(水産資源・漁業)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	353	315	38	22	3	19
	養殖	137	146	△ 9	0	0	0
	水産商事	2,682	2,786	△ 104	35	38	△ 3
	海外	1,909	1,589	320	78	93	△ 15
水産資源セグメント計		5,081	4,836	245	135	133	2

### <漁業ユニット>

安定した漁業オペレーションを実施  
販売ルートが多様化



営業利益の大幅な拡大を図る

海外まき網漁業の改善  
燃油価格の上昇が懸念



経費の削減、漁獲量の増加、漁獲物の  
加工販売の拡大により黒字化を図る

オーストラルフィッシャリーズ  
欧米の経済回復により魚価上昇



メロの輸出販売価格  
新型コロナウイルスの拡大前のレベルに回復

## 4. 2023年3月期セグメント別計画(水産資源・養殖)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	353	315	38	22	3	19
	養殖	137	146	△ 9	0	0	0
	水産商事	2,682	2,786	△ 104	35	38	△ 3
	海外	1,909	1,589	320	78	93	△ 15
水産資源セグメント計		5,081	4,836	245	135	133	2

### <養殖ユニット>

燃油価格、飼料代等の上昇



技術改善とコスト削減により  
収益の向上を図る

完全養殖クロマグロの  
コスト高への対応



生産規模の適正化、生産性の向上、  
研究開発の強化により、収益構造の改善を図る

ブリの人工種苗を活用した  
生産・販売体制の強化



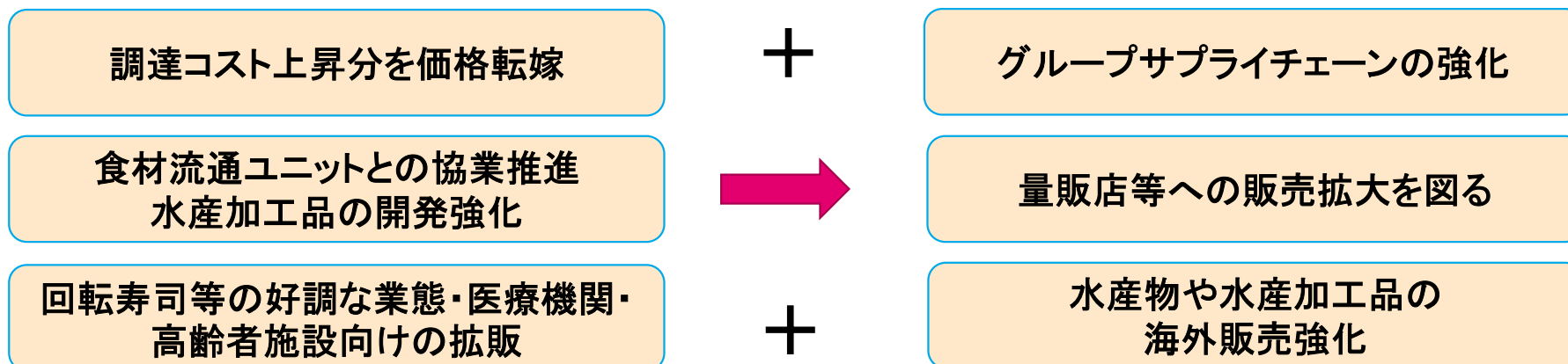
持続可能な事業モデルを実現  
販売数量の増加を図る

## 4. 2023年3月期セグメント別計画(水産資源・水産商事)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	353	315	38	22	3	19
	養殖	137	146	△ 9	0	0	0
	水産商事	2,682	2,786	△ 104	35	38	△ 3
	海外	1,909	1,589	320	78	93	△ 15
水産資源セグメント計		5,081	4,836	245	135	133	2

### <水産商事ユニット>



## 4. 2023年3月期セグメント別計画(水産資源・海外)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	353	315	38	22	3	19
	養殖	137	146	△ 9	0	0	0
	水産商事	2,682	2,786	△ 104	35	38	△ 3
	海外	1,909	1,589	320	78	93	△ 15
水産資源セグメント計		5,081	4,836	245	135	133	2

### <海外ユニット>

北米

新たに確保したアラスカのスケソウダラ資源の有効活用、二次加工の拡大、生産の効率化により、収益力向上を図る

欧州

欧州における水産物の販売ネットワークを拡大  
今後も、M&Aを含めた更なる事業拡大を積極的に推進

アジア

タイのペットフード事業が堅調な需要等により、好調に推移  
原材料価格の上昇、競合先の新規参入による供給量の増加などが懸念  
販売価格への転嫁や商品開発・製造技術の向上に取り組む



## 4. 2023年3月期セグメント別計画(加工食品)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
加工食品	加工食品	990	974	16	39	39	0
	ファインケミカル	73	68	5	14	11	3
加工食品セグメント計		1,063	1,042	21	53	51	2

### <加工食品ユニット>

商品開発力の向上  
積極的な販促活動



売上の拡大とブランド認知  
の向上を図る

原材料価格等の上昇



必要な値上げと売上拡大

### <ファインケミカルユニット>

DHA・EPA製品の拡販  
ヘパリンの新規取り扱い



事業規模拡大

## 4. 2023年3月期セグメント別計画(食材流通)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
食材流通	食材流通	2,004	1,908	96	29	32	△ 3
	畜産	672	711	△ 39	9	7	2
食材流通セグメント計		2,676	2,619	57	38	39	△ 1

### <食材流通ユニット>

顧客起点による販売活動強化

+

食品、水産、畜産の枠組み  
を超えた提案強化

### <畜産ユニット>

輸入食肉価格の上昇により厳しい供給環境

国産食肉の取り扱い強化  
多様な産地や付加価値商材の提案



販路の拡大に取り組む

## 4. 2023年3月期セグメント別計画(物流)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減	2023年3月期 計画	2022年3月期 実績	増減
物流	物流	177	166	11	15	11	4

主要都市港湾地区を中心とした  
物流拠点を最大限に活用



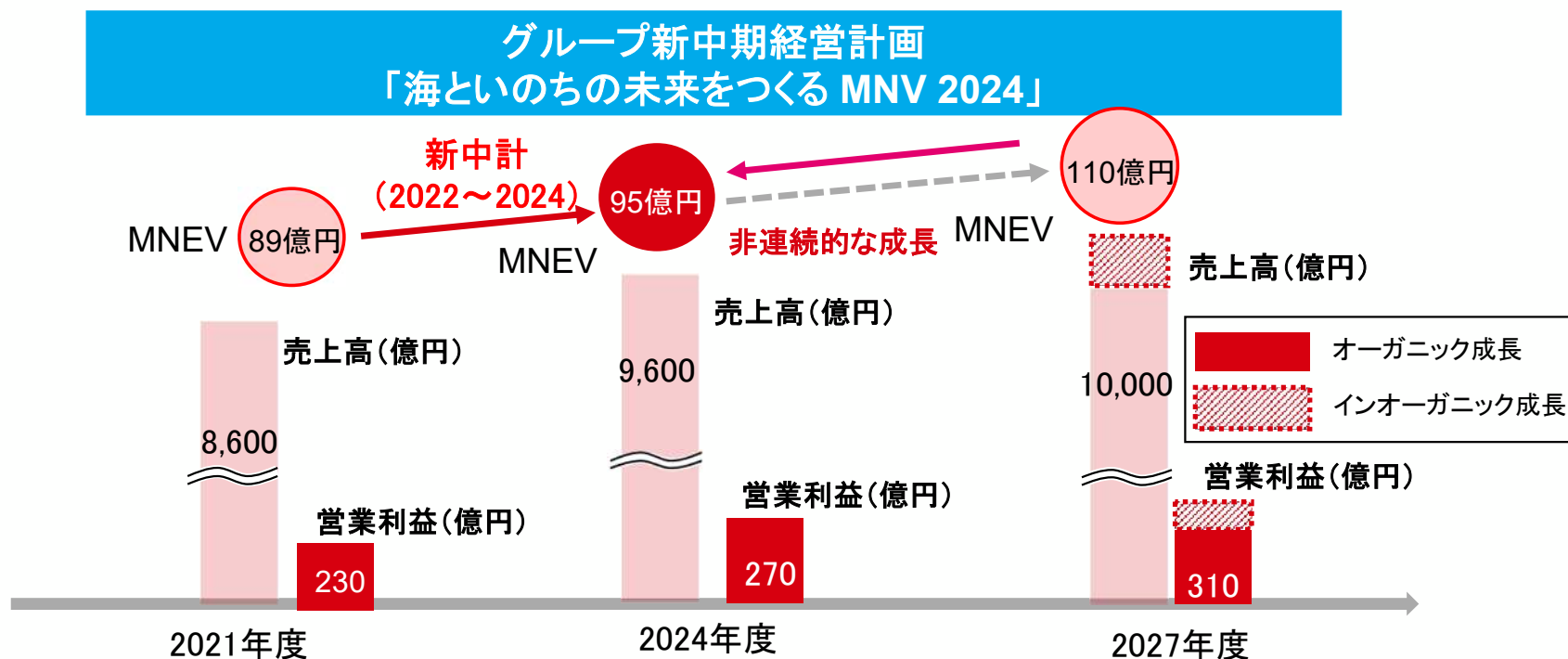
保管需要の取り込みを図る

輸配送・通関等を含めた  
総合物流サービスを提供



収益拡大を目指す

## 5. 中期経営計画



	21年度実績	24年度計画	27年度目標
ROIC	4.3%	4.3%~	5%~
ROE	11.2%	9%~	9%~
ネットD/Eレシオ	1.4倍	~1.2倍	~1.0倍

## 6. 株主還元策

### 株主還元策

**2022年3月期配当**

**1株当たり  
15円増配の55円**

**自己株式の取得**

**総額50億円(上限)  
総数250万株(上限)**

**株主優待制度廃止**

**Thank You**



**MARUHA NICHIRO**

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。